

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

活動

絵合わせ

どんな絵が完成するか考えながら、一枚の絵になるように3分割の絵合わせに挑戦する

環境をデザインする

#### ●準備した物

水中の動物、乗り物、鳥のカード

探究活動を実践する

#### ●活動内容

3枚のカードを1枚の絵になるように並べる

どんな絵が完成するかを想像する

#### ●子どもたちの様子

2枚のカードを合わせて、できた絵を問うと「ハチ!」「シロナガスクジラ!」「朝顔」と虫や生き物、花の名前が次々と挙がった。カードの中から同じ絵を探し、3枚繋げて「これ楽しいね!」「もっとやりたい!」とくり返す姿が見られた。出来上がった乗り物や生き物の絵を見て、「これ乗ったことある!キックスクーター!」「バス!乗ったことない。」と話していた。



#### ●振り返りをふまえた気づき

担任より

以前したことのある絵合わせカードだったこともあり、初めからやり方を分かってスムーズに絵を合わせることが出来ていた。また、2枚では簡単すぎたが3枚でも行えるようにしてくれていたこともあり、段階的に楽しむことが出来ていた。3枚のカードで行う時に車や動物の真ん中のカードを入れ忘れて、単色の魚などは組み合わせ方に苦戦する子どもたちもいた。形だけでなく色で認識してる子どもたちもいるように感じた。すぐに組み合わせられた子どもたちも出来た絵柄の名前を言い合ったり、わざと別のカードを合わせて新しい動物を作ったりして様々な楽しみ方ができ、より楽しめていた。

講師より

完成する絵を思い浮かべながら、カードの向きや位置を変えて試す姿が見られた。絵の一部を手がかりに、つながり確かめながら全体を想像しようとするやり取りが続いていた。完成した絵をきっかけに、生き物や乗り物の名称や自分の経験を言葉にする姿も多く見られた。今後は、部分を手がかりに考えるやり取りが広がるよう、素材や提示の仕方を工夫していく。

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

### 活動 仲間分け、形の分類

仲間分けの発展として、より多くのカードを使い、色、形で仲間分けをする

#### 環境をデザインする

##### ●準備した物

カード、台紙

#### 探究活動を実践する

##### ●活動内容

色、形で分けてみる

並べて比べる

##### ●子どもたちの様子

カードを見せて以前と何が変わったか問うと、考えて「長い四角が増えている！」「色も1色増えた！」「青かな？」「緑だね！」と気づいたことを話す姿があった。仲間分けでは、「色で分けた！」「何で分けようかな？」「同じ仲間を並べてみよう」と友達と話したり、以前の仲間分けを思い出して「先生こうでしょ？」「先生！どんどんやって良いですか？」と進めていく様子も見られた。



##### ●振り返りをふまえた気づき

#### 担任より

カードの枚数が多く、講師の指示があったカードを探すのに時間がかかっていたが、コツを教えてもらおうとカードをまとめて持ち、「これはちがう」など考えながらお皿に入れて振り分けをしていた。自由にグループ分けをしてみたと指示があると、色別、形別など自分で気付いてグループ分けをしていた。最後はマス目のある台紙に色（縦）、形（横）別に並べていった。仕組みが分かると、積極的に進めていく様子があった。答え合わせをする際には、講師が意図的に間違え、子どもたちが「右！左！上！」と左右で答えられるよう促すと、左右が分かっている児が多く見られた。保育の中でも色や形の違いに気付けるような声掛けをしていきたい。

#### 講師より

以前のカードとの違いに気づく姿から、子どもたちが一枚一枚をよく見比べていることを捉えた。仲間分けでは、色や形の中から自分なりの基準を選び、その理由を言葉にしながら進めていた。枚数が増えた中でも、前回の経験を手がかりに、基準に照らし合わせて考えようとする姿が見られた。

### 活動スケジュール

#### 4歳児クラス

日にち	令和7年12月12日
時間	30分
参加人数	14人

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 1あたりの量の理解

「1あたりの量」と「いくつ分」の考え方を理解する

環境をデザインする

●準備した物

タイル

探究活動を実践する

●活動内容

乗り物の1あたりの量の考え方を理解する

●子どもたちの様子

「ぞうの鼻は何本?」「1本」「ぞうが2頭になったら?」「2本」「ゾウ一頭で耳は?」「2個!」「じゃあ2頭だと?」「4!」大きな声ではっきり答える姿があった。カラータイルを使用して、「自転車には、タイヤは何個あるかな」問うと、すぐに2個並べる様子が見られた。「自転車が2台になったら、タイヤは?」と問いを重ねると、「一台目、2個。2台目2個。4個並んだよ!」と並べて声を上げる姿があった。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

「自転車のタイヤ(2つ)が2台だと」といった易しい問題はすぐに取り組んでいたが、数が増えてくるとやはり難しい様子。頭の中で計算している児もいたが、今の段階は、「一台分ごとにグループにして並べる」など、計算式の暗記だけでなく、仕組みを理解できる方法を知っていくことも大切にする。

講師より

一つあたりの量を確認し、それがいくつ分かを、ひとつひとつ指で確かめながらタイルを並べ考える様子が見られた。問いを重ねる中で、「一台分」「二台分」と区切って捉え、並べた数で確かめようとする姿が多かった。数量が増えても、同じ数のまとまりを繰り返し扱いながら、数を確認しようとする様子が多く見られた。今後も、身近な物を用いながら、「一つ分」と「いくつ分」を行き来して考えられる場面を用意していく。

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和7年12月12日
時間	45分
参加人数	14人

